

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 12 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200015		
法人名	医療法人社団林医院		
事業所名	グループホーム若紫の家		
所在地	広島市西区己斐中3丁目53-14 (電話) 082-272-2111		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200015-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年12月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

毎日、ラジオ体操と食事前の嚥下体操を行い、必要であれば個別の訓練を行い、ADLの低下予防に努めている。又週一回個別、集団レクリエーション、散歩など行っている。町内行事としては毎年、敬老会や地域の夏祭りに参加させて頂いており、又ボランティアにも力を取り入れており音楽レク業者や日本語が話せない方等の対話サービスボランティア等来て頂いている。二か月に一回の訪問理美容も行っており、おしゃれを楽しんで頂いている。食事面では、管理栄養士の指導の下に栄養バランスの良い手作りの食事を皆様に提供しており、衛生面に気を付け美味しく召し上がって頂けるよう盛り付けの工夫をしている。医師による毎週(日、祝)の往診、看護師も配置しており、医療面での連携も取れており、緊急時には速やかに対応出来る体制を整えている。また、近隣には同系列のホームもあり柔軟な対応が可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街に南欧風の明るい色合いの外観を施した建物で、利用者の穏やかな暮らしと共に、地域の季節行事に参加し笑顔の増える交流を継続している。かるた大会や音楽会ほか企画する年中行事も豊富で、音楽療法を取り入れた集いなど一緒に楽しめるイベントを催し、利用者の生活機能の維持や日々の暮らしの活性化に努めている。福祉車両を活用した平和公園への花見などはもとより、地区のフリーマーケットに参加しヨーヨー釣りを楽しむなど、四季を味わう外出支援にも力を入れている。近隣の系列事業所と連携して防災・減災対策を強化し、地域ぐるみの安全確保に取り組み、利用者が最期までその人らしく過ごせるよう医療を含むチームケアの向上に尽力している事業所である。

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人全体、事業所独自の理念を掲げており、立場や経験に関わらず、毎朝の申し送り時に全員で理念を読み上げ意識付け、実践につながるように取り組んでいる。又ホーム独自の月間目標を毎月定めており毎月ミーティング時に反省、改善を行っている。	ノーマライゼーションの確立をコアな信条に、事業所独自の理念・月間目標を定め、利用者に寄り添う支援や「笑顔と挨拶」のあるケアに努めるよう職員間で意識統一を図っている。毎朝の理念唱和と共に、月毎のミーティングで課題を振り返り日々の実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩時には挨拶を交わしたり、地域住民の一員として町内会に参加しており、回覧板を通じて地域活動に参加している。毎年近くの小学校で行われる夏祭りやフジハイツの納涼祭に参加して、見物場所を提供して頂いたり、役員の方々にも支えて頂いている。また近隣のお子様の110番の家の指定をされている。	町内会に加入し、日常の挨拶や子供みこしの来訪など自然な繋がりに加え、小学校の盆踊りや地区のフリーマーケットにも参加し交流を重ねている。福祉専門学校の実習生の受け入れなどを通じ、職員間で「地域と共にある」意識を持ち、地域関係者との関わりを更にひろめようとする姿勢がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく、地域の方にも声掛けをして安心して頂けるよう努めている。通勤、散歩中などに認知症に関する相談が見られる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族や町内役員の参加を促し、運営推進会議を通じて施設取組みの報告を行い、意見を頂き、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう支援している。報告や情報に留まらず、率直な意見を貰い、町内行事の参加、サービス向上に具体的に生かして行くことで改善の取組みを行っている。	当会議には、地域住民・民生委員・地域包括支援センター職員などの参加を得て、現状や行事報告及び意見交換がなされている。地域行事へ減少傾向である住民参加を促し、事業所で花見に屋台を出店する案など地域交流対策についても積極的な取組みを講じている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	情報共有出来るように、介護保険事業者指導係や区役所の介護保険担当者、生活課等に運営やサービス内容や苦情、相談を積極的に伝え、疑問に思った事は問い合わせし、協力関係を築いている。入居者の介護保険の手続きやケアの問題・記録等を話し合い情報を共有しながら共に取り組んでいる。	普段から相談・手続きなどで密に連携し、職員が区役所窓口に出向き信頼関係を結ぶほか、介護保険課・生活課などでの個別相談と共に情報共有している。地域包括支援センターからの研修案内やオレンジプランに関する集会に参加するほか、随時話し合い協力関係を紡いでいる。	

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修や勉強会を行い、身体拘束によって利用者を与える身体的、精神的苦痛を職員全員が理解している。見守り方法を徹底し、外出しそうな様子が見られたら制止するので無くさりげなく声をかけたり、一緒に散歩に行くなど安全面に配慮して鍵をかけずに自然な暮らしを支援している。また、SECOMを導入しており、目の届かない場所でも察知できるようにしている。	定期的な外部研修はもとより、言葉による抑制も含め身体拘束をしないケアを実践している。その適正化のための指針や三か月毎の適正化委員会でのケース検討など職員間で更に意識を高めている。現在、身体拘束を要する利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止についての研修等があれば、積極的に参加して、他の職員が理解、浸透出来るように勉強会や月1回ミーティングを実施している。職員全員で早期発見・防止を実施している。管理者は職員の疲労、ストレスがサービスに影響しないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員に制度の説明をしたり、利用者、家族に制度について情報提供を行っている。機会があれば外部研修に参加し、利用者の支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には内部見学をして施設の事をよく知って頂き、納得した上で入居して頂いている。契約については時間をかけて丁寧に説明を行い、特に利用料金やリスク、重度化、看取りについての対応方針等については、事前に詳しく説明をし、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口を設置しており、御家族にはケアマネを主に毎月の手紙や電話等、訪問時に細かい事でも利用者の様子を詳しく伝え何でも言ってもらえるような雰囲気作りを徹底しており苦情の予防、早期対応に努めている。利用者には日頃のコミュニケーションの中で意見や要望を集め、職員全体で把握、早期対処に努めている。意見や要望は随時、管理者・職員の対応策と共に提示し、運営へ反映している。	何でも話し合える雰囲気づくりや訪れやすい環境整備に心がけ、面会時・イベント時に家族の貴重な意見を伺い改善策に反映させている。掃除の得意なスタッフが率先して取り組み、職員間で意識の連鎖につながった事例などにより良いケア内容や運営に向けて活かしている。	

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りを活用したり、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。意見が言いにくい場合は個別で問かけ、聞き出したりしている。また、月1回のミーティングや勉強会で発表の場を設け、職員の機会を聞く様になっている。又週一回、月1回と役員が揃う会議があり全体の問題として取り組んでいる。	月毎のミーティング時や勉強会で気付きやアイデアなど発表する機会を設け、相互の理解や共有に努めている。役員参加の会議時でも話し合い、個別面談も設け職員のモチベーション維持や意識向上に繋げつつ、より良い運営や職場環境整備に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	研修に参加したり、職員の資格取得に向けた支援を行い、疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩場所や時間を設けている。また、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の確保、向上に向けて事業所以外で開催される研修になるべく多くの職員が受講出来るようにしている。また、研修後はミーティングを行い、報告書を全職員が閲覧出来るようにしている。新人職員に関しては、経験ある職員が付き、利用者との関わり方の指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者や職員は事業所外の研修や同系列の勉強会に参加して質の向上を目指し、意見交換や情報収集を行い、交流や連携を図り、ケアに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に、主治医の診療情報提供書、サマリー等をもとに状態を把握し、本人、家族に話を聞き、身体的、精神的両面を理解し、積極的に遠慮のない関係が築けるようコミュニケーションを常に図っている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学時には家族の悩み、苦勞等、これまでの経緯についてゆっくり聞く様にしている。家族が困っている時、不安な事をいつでも相談して頂けるよう、日頃から家族とのコミュニケーションを密にとっている。面会時には近況を伝え、家族が求めているものを理解し、不安や思いを受け止めるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人や家族の思い、状況を確認して信頼関係を築きながら、出来る限り改善に向けた支援の提案を行っている。早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側、支援される側という意識を持たず、人生の先輩であるという考えを共有して、共に支え合える関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には日頃の状態をこまめに報告するとともに、毎月の手紙でも日々の暮らしの様子を伝え、情報共有につとめている。本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援している事を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている。	今までの生活の延長線上であるように今までの関係性を断ち切らない様に電話や手紙、はがきを使用してつながりを継続できるよう支援している。面会時には自室までご案内し楽しく話が出来るようさりげなく気遣い対応している。お墓参りや以前行かれていた美容室に継続して行かれて入居者様もいる。また家族の協力もあり、外食等行きたい場所にも出かけておられる。	地元からの利用者も多く、長年の付き合いや懐かしい関係性を継続できるよう、日々の支援に組み込み支援している。元職場の友人や老人会仲間が訪れ旧交を温めたり、知人への年賀状を利用者が自筆で出すなど、かけがえのない繋がりを大切に生活を送っている。	

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず暮らしを楽しめるよう支援している。利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了しても今までの暮らしの継続性が損なわれないように、支援の内容や注意が必要な点について情報提供を行い細かい連携を心掛けている。相談窓口を作り、関係性を大切にしてその後の支援に応じる姿勢を示している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から全職員でコミュニケーションを密にとるよう努めより信頼関係を築きより多くの言葉を集め、利用者の言動、思いや希望を把握しスタッフで共有している。言葉の表出困難、意思疎通が難しい方へは生活記録、朝夕の申し送り時に情報を得たり御家族の方からも得ている。	ノンバーバルコミュニケーションを含め、さりげない会話やふれあいを通じ、個々の思いや意向を汲み取り、理解した内容を申し送りノートや個別ファイルに記しアセスメントにつなげている。尾道の実家に帰りたい利用者の思いを叶え、近所の友人とも懐かしい再会を果たせたケースもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、利用者との協力の下でセンター方式を作成し、今までの生活環境や入居前情報(紹介状、サマリー、生活歴)を職員全員が把握している。また、介護計画を活用し、本人や家族の協力を得てこれまでの暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人一人の生活リズムを理解するとともに職員全員が把握出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や御家族の思いをや意見をもとに、課題を職員全員から聴取し、医療的、栄養面では往診時主治医から聴取し又看護師、栄養士などから意見を伺い、原案を作成しサービス担当者会議を開催し本人が実行できる目標を立て、毎月出来ているか評価し3ヶ月おきにモニタリングをして評価を行っている。</p>	<p>担当スタッフの情報を基に、本人・家族・主治医のサマリーなどを加味し、ニーズに沿った個々の暮らしがスムーズに営めるよう計画作成している。利用者の役割分担一覧表を設け活性化を図り生活機能の維持に努めている。カンファレンスシートで日々のケア確認を行い、三か月毎のモニタリングで見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>職員の気づきや利用者の状態変化は日々の申し送りで確認し、個別ファイルに記録している。また、センター方式を活用したり、御家族の思いや意見を聞き、重要事項については申し送りノートを活用し、職員間で共有しながらケアしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者と家族が安心して暮らし続けられるように状況や要望に引き合い、臨機応変に対応している。また、その方へ状態や状況に応じて同系列の老健や協力病院の転居が出来る等の対応をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう各機関等や町内会、ボランティアを活用し、意見交換出来るよう支援している。町内のお店や理美容院を利用して関係を強化している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居後も主治医の変更を進めたりせず、御本人御家族の希望する医療機関へ受診している。また必要時受診の付き添いや家族とも同行し毎回普段の様子や変化を伝えるようにしている。医師の訪問診療、24時間連携受け入れ病院(福島生協病院)、各医療機関関係者確保(外科、内科、皮膚科、歯科)により適切な医療が受け入れられるよう支援している。</p>	<p>週三回内科の訪問診療があり、訪問看護や医療機関との連携で緊急時を含め迅速な対応を行なっている。福祉車両を活用した通院同行支援も職員が担い、その内容など家族と情報共有している。手洗い・うがいの奨励や室温湿度調整により感染症予防に留意し、服薬管理も含め利用者の体調コントロールに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと契約しており、日常の健康面や医療面について相談、助言、対応を行ってもらっている。介護職員は些細な変化等あれば看護職員の連絡体制を取り、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居後も主治医の変更を勧めたりせず、御家族の希望される病院に受診の支援を行い、受診の際は事前に施設内での生活や受診に必要な受診の根拠となる情報を提供している。また家族の付き添いが困難な方に対しては職員が付き添い普段の状態や様子を伝えるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居と同時に家族・医師・職員等、チーム全体で話し合いを行っている。対応が可能な事・困難な事・不安な事等を提携病院や協力病院機関と情報を交換しながら支援している。本人や家族の意向を踏まえ安心して納得した最後が迎えられるように主治医を含めて随時意志確認をしながら取り組んでいる。	終末期に向けた指針があり、重度化した場合は家族・関係者とその都度よく話し合い、医療体制の整う中チームアプローチによる温かみのある支援に取り組んでいる。系列の老健や協力医療機関への移設の検討や入退院時の支援を含め、本人・家族の意向に沿った方向性に配慮しつつ事業所での看取り経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事林Dr・原田Dr・看護師の指示や指導の基、全職員が対応出来るように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消火器や避難経路の確保等、設備点検を定期的に行い、消防署の協力を得て、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。また、町内会を通じて災害時の避難場所の確認を行い、災害が起きた時のご協力を得ている。又、毎年消防大会に参加し災害時に備えて意識を高めている。	年二回消防署員立ち会いのもと、防災避難訓練を実施し職員間で意識を深めている。正しい避難場所や経路の確認と共に地域を交えた減災対策に取り組む、安全確保への強化に努め、簡易食・水などのストックや救援備品を揃え協力体制を整えている。	近隣の系列事業所と連携し、法人の災害時対応マニュアルの見直しや緊急連絡網の確認など、地域ぐるみの安全対策について今一度検討し更なる取り組みに期待します。

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
配備					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねないように、年長者として敬意を払い、尊厳ある姿を大切にすることを心掛けている。援助の際は本人の気持ちを考えて目立たずさりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい声掛けをするように心がけている。また、個人情報の保護についても外部に漏れないように全職員が徹底している。	日々の生活サイクルにおいて利用者の尊厳を護り、言葉掛けなど礼節をわきまえた対応に心がけている。個々のプライバシーを守り、意思決定や生活意欲につながるケアの導入に加え、それぞれのペースに合わせた安心して過ごせる環境づくりに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に合わせて声を掛け、些細なことでも本人が決めるよう支援している。意志表示が困難な方でも表情や反応を注意深く観察しながら、自己決定出来るよう努めている。難聴の方には、ホワイトボード等を用いて、曖昧な伝わり方にならないように気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの体調やペースに配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性・希望・生活歴に置いて本人の好みや意向を尊重し、季節感や清潔感あるその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。二か月に一回の訪問理美容で季節に合わせたカットや毛染めを行い、希望によっては、お化粧を写真撮影を行うなど連携を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みや苦手な物を把握し、日常のコミュニケーション等から献立を作成している。旬な野菜、彩り、盛り付けを工夫しながら食事を提供しており、利用者と職員と一緒に食事を味わいながら楽しめるよう支援している。また、一日の大切な活動のひとつとして、食後には後片付け等を入居者と一緒に行っている。又外出支援の一環として入居者の誕生日には外食を取り入れ楽しんで頂いている。	季節感のある食材や彩りを工夫し、見た目にも美味しく栄養価も考慮した食事提供をしている。盛り付けや後片付けなど役割として利用者も手伝い、家庭的な雰囲気の中で職員と共に行なっている。誕生日外食や行事食にも楽しめる工夫を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎食時以外に水分補給を行い，確実に摂取して頂けるよう声かけを行っている。食事に関しても，一人ひとりの体と一日の摂取量を把握し，その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり，副食を食べやすく刻んだりと対応している。また，管理栄養士，栄養士を中心に献立の栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	イソジンを使用しうがいと歯磨き，義歯洗浄などの口腔の清潔維持は，日常的に支援している。また利用者によってはガーゼやスポンジを使用して，自分で出来る方は声掛け見守りをし，出来ない方に関しては毎食後のケアを行っている。昼食前には嚥下体操を行い，嚥下障害による肺炎の防止に努めている。また，治療が必要であれば，歯科往診を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を使用して一人一人の時間，パターンに合った，声掛けを実施している。身体状況に応じて出来る所は見守りを行い，自尊心に配慮し，さりげなくカバーしている。又，毎日歩行訓練等実施し身体機能の維持，向上を目指しトイレに行けるよう支援している。	ほとんどの利用者がリハビリパンツにパッド対応で，トイレでの自然な排泄を促している。廊下を歩いたり，軽度な運動を取り入れ日中の活動量を増やし，下肢筋力の維持や自立に向けた支援に取り組んでいる。水分補給や腸内環境を整える食材の工夫により気持ちよく排泄できるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り，食事，排泄，活動状況等を見直し，家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。また，毎日のラジオ体操と水分補給を徹底し，必要であれば個々の状態に合わせた使用量，頻度で下剤や浣腸等も検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のペースに合わせず利用者の希望に合った曜日，時間帯で入浴を支援している。また，ゆっくり浸かりたい方には順番を与える後に回す等の工夫もしている。入浴前にはバイタルチェックをして安全に楽しみの時間となるように健康面に努めている。不安や恐怖感を持たないように職員も一緒に入り心情を察した配慮を行っている。異性に対しては抵抗がある場合は，同性の職員が対応するようにしている。又，シャンプーやリンス等は以前から利用していた物を使われたり入浴剤を使用したり個々で楽しまれている。	個々の心身状態に合わせ，柔軟な対応でゆっくり入浴できるよう支援している。時には柚子などの季節の香りを楽しんだり使い慣れたシャンプー剤の使用で，職員との会話を交えたリラックスタイムづくりに努めている。要望に沿い同性介助対応やシャワー浴・足浴などで清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>本人にとって自然な生活リズムが 整えられるよう日中の活動を促 し、心地よく眠りにつけるよう 努めている。また、眠剤を服用 されている方に関しては睡眠状 況を把握し、家族や主治医とも 相談しながら調整に努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>職員が個々の内服薬、効能を把 握できるようにファイルを作成し ている。また服薬による副作用 が無いか、検温表を確認しなが ら確認を行っている。服薬時 には本人に手渡しし、きちんと 服薬できるよう支援している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>センター方式を活用して、一人 ひとりの生活歴を把握し、潜在 している記憶や出来る力を最大 限に活かして自分らしく暮らせ るように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。</p>	<p>外出が困難と決め付けず、重度 の方でも外出が出来るように、 介護タクシーを利用したり御家 族の方にも協力して頂き、希 望に沿った支援を行っている。 戸外への散歩、美容院、また お花見、夏祭り等の季節行事 や外出希望者には職員が同行 して支援を行っている。</p>	<p>外気に触れる気晴らし療法とし ても、出来る限り外出の機会 を設ける工夫に努めている。平 和公園の花見や季節毎の景色 を楽しむドライブなど福祉車 両を活用し、家族との個別外 出も思い出づくりの一環とな っている。職員と尾道や山口 の実家に訪れ近所の人との再 会や願いをかなえた事もある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。</p>	<p>本人の安心や満足に向けて、少 額でも所持金を持って頂く様 に家族と相談しながら支援し ている。また外出時には自分 の財布からお金を出すことで 社会性の維持につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、年賀状を出すための支援を行っており、プライバシーに配慮しながら希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。また、意思疎通が困難な方に家族、友人等から手紙が届いた場合は職員が読み聞かせをしてお伝えしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関は季節に合った花や飾りを取り入れ、入りやすい雰囲気にしており電球は暖色系の物を取り入れ、暖かみのあるものになっている。リビングは風通しが良く、山や緑が見えて季節感を感じやすい。台所は利用者が安心して使用出来るようになっており個々の役割を決めお手伝いなどして頂いている。トイレは車椅子でも出入りしやすい大きさになっている。	施設内全体が白を基調としたおしゃれな雰囲気で、グランドピアノが設置され家具も欧風に揃えている。広いベランダからは山や街の様子が一望でき、日当たりや空気の流れが良い。役割としての手伝いがしやすいキッチンや、日常活動を支える手すりの設置など福祉用具が工夫された憩いのリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂や居間は一体的な造りになっており、他の入居者と自由に団欒できるようソファや椅子を置いている。気の合う入居者同士がくつろげる空間、個室で一人になれる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は新しい品物をそろえて頂くのでは無く、利用者が安心して過ごせるよう、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂けるように御家族、本人に説明している。本人や家族と相談しながらその人らしく居心地の良い雰囲気、居室作りを行っている。	居室入口に表札を掲げ識別しやすく工夫し、普段の使い慣れた身の回り品を持ち込み、その人らしく落ち着いて過ごせるよう個性を活かした雰囲気づくりに心がけている。掃除や整理整頓に留意し、清潔感のある居室となるよう職員間で努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺や階段に滑り止め等を設置しており、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置に配慮している。また、状態が変わり混乱が生じた時は職員で話し合い、不安や混乱材料を取り除き自立支援につなげている。		

V アウトカム項目(B棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	●	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	●	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	●	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	●	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	●	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	●	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	●	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム若紫の家

作成日 平成31年1月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の取り組みについて	運営推進会議が有意義な時間となるよう目指す。	定期的な運営推進会議の実施又行うにあたっての見直し(様々な人に参加して頂き交流の場を増やす)、報告書の具体的化。	半年
2	13	災害対策について	入居者様が安心して暮らせる施設を目指す。	日頃の危機管理徹底の為、今一度法人内での話し合い、勉強会を開きマニュアル作成しておく又、緊急時の管理備蓄品の補充、見直しを行う。	2～3ヶ月
3	13	職員を育てる取り組みについて	全職員の知識意識向上に努め入居者様が安心して暮らせる施設を目指す。	内部研修だけでなく外部研修への積極的な参加(全職員)平等的に参加する 参加した職員は他職員に報告し全職員で共有。	半年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。